



審判長講評 畠山 隆吉 先生

開会式の冒頭でも触れましたが、昨年日本で開催されたラグビーのワールドカップの試合を見て、素晴らしいと感じたのは私だけではないと思います。あれだけ高い身体能力を持った選手が激しくぶつかり合う中でも規律があり、試合が終わった後はノーサイドで対戦相手を讃える品格がある。そしてさらに、観衆も一体となって自国以外の選手の試合を見て拍手して応援する。そのような姿を見て、世界にラグビーの良さが伝わったのだと思います。

では、剣道は、本日の試合を見る姿勢、仲間を応援する姿勢はどうであったでしょうか。残念ながら本日はその試合を見る姿勢について指導をする場面もありました。これには剣道が自分が試合に勝つことのみが目的の競技になりつつあるのではないかと危惧する部分があります。ラグビーのように、試合者だけでなく、試合を見る者も一体となって剣道の良さを伝えるべきではないでしょうか。これだけレベルの高い選手が集まる盛大な試合であるからこそ、見る姿勢、仲間を応援し、その試合を通じて学ぼうとする姿勢を大事にしたいと思います。剣道の大事なところは何なのか。ラグビーのワールドカップを見て逆に感じてもらいたい。そしてぜひ、世界に発信できるように、また他競技の選手が見ても『剣道はすごいな』と思われるようになってもらいたいと感じます。今日この場にいた選手・指導者が若い世代が見て学べるようにまずは意識して頂きたい。そして、日本が文化として大事にしている武道である剣道を継承していくには、個人ではなく、剣道に携わる者皆でやっていく共通認識が必要ではないかと本日は感じました。